

## 自然農園だより



宮下 洋子  
Hiroko Miyashita

農園のマスコットボーイ！すっかり立ち姿が決まってきました！

### 「懐かしき<sup>さと</sup>未来応援プロジェクト」設立に向けて 持続可能でない新規就農有機 農業者たち

日本の農業は、先祖伝来の田畑や、家、生産手段などを受け継いでも、なかなか経営の厳しい第1次産業です。とりわけ、安全な食を提供する有機農業者は、農業者全体の0.2パーセントに満たないほどで、なかなか新規就農者が定着し、生計を立てることは難しい状況にあります。

ましてや、理想を高く掲げ、都会から移り住み、土地や機械、資材、肥料、種などすべてを購入し、ゼロから始めようとする若者にとって、どれほどハードルが高いかは、押して知るべしです。

さらに、残留農薬の少ない耕作放棄地を探し、開墾する所から始めなければなりません。後継者のいない荒れ果てた土地がいかにも多いことか、若者たちと共に、土地探しをする中で、日本農業の行く末が目に見えるようです。

まほろばの優秀な契約農家さんも後継者のいない方が多いのです。

### これからの若者を支えるのは わたしたちの役割

そのような中にあって、まほろば自然農園に集まってくる有能で、志操堅固な若者たちを、どん

なことをしてでも、支えて行かなければという思いを強くしています。

食とエネルギーを自給できず、国防も自立できない国は、どんなに経済的に豊かであっても、いざとなれば、どこよりも弱い国になってしまいます。

まさに、今の日本がその状態で、政府は、食の自給率向上を掲げながら、一方で補助金まで出して輸出を推進しています。

また、自動車産業を助けるために、関税の引き下げと引き換えに、農業を犠牲にして、減反政策を推進し、米は有り余っているのに米国から輸入しています。

## 「みどりの食料システム戦略」が議会で承認

持続可能な地球環境を守るために、国連でSDGsが提唱され、日本でも、それを受けて、4月23日、

「みどりの食料システム戦略」(以下「みどり戦略」)が議会で承認されました。

該当すれば、盛りだくさんの交付金や助成金が用意されているので、新規就農者には、大きな恩恵になります。

## 「有機農業者が一向に増えていない理由を、分析する必要性があるのでは」

その制定に当たって参考人招致された、北海道有機農業研究会会長の瀬川守氏(当麻グリーンライフ代表)は、

「2006年12月に有機農業推進法が制定されたにもかかわらず、有機農業者が一向に増えていない理由を、分析する必要性があるのでは」という提言をされました。まさにその通りです。

### みどりの食料システム戦略 (概要)

～食料・農林水産業の生産力向上と持続性の両立をイノベーションで実現～  
Measures for achievement of Decarbonization and Resilience with Innovation (MeaDRI)

令和3年5月  
農林水産省

#### 現状と今後の課題

- 生産者の減少・高齢化、地域コミュニティの衰退
- 温暖化、大規模自然災害
- コロナを契機としたサプライチェーン混乱、内食拡大
- SDGsや環境への対応強化
- 国際ルールメイキングへの参画

「Farm to Fork戦略」(20.5)  
2030年までに化学農薬の使用及びリスクを50%減、有機農業を25%に拡大

「農業イノベーションアジェンダ」(20.2)  
2050年までに農業生産量40%増加と環境フットプリント半減

**農林水産業や地域の将来も見据えた持続可能な食料システムの構築が急務**

持続可能な食料システムの構築に向け、「みどりの食料システム戦略」を策定し、中長期的な観点から、調達、生産、加工・流通、消費の各段階の取組とカーボンニュートラル等の環境負荷軽減のイノベーションを推進

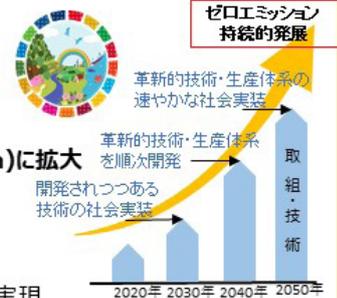
#### 目指す姿と取組方向

##### 2050年までに目指す姿

- 農林水産業のCO2ゼロエミッション化の実現
- 低リスク農業への転換、総合的な病害虫管理体系の確立・普及に加え、ネオニコチノイド系を含む従来の殺虫剤に代わる新規農薬等の開発により化学農薬の使用量(リスク換算)を50%低減
- 輸入原料や化石燃料を原料とした化学肥料の使用量を30%低減
- 耕地面積に占める有機農業の取組面積の割合を25%(100万ha)に拡大
- 2030年までに食品製造業の労働生産性を最低3割向上
- 2030年までに食品企業における持続可能性に配慮した輸入原材料調達の実現を目指す
- エリートツリー等を林業用苗木の9割以上に拡大
- ニホンウナギ、クロマグロ等の養殖において人工種苗比率100%を実現

##### 戦略的な取組方向

2040年までに革新的な技術・生産体系を順次開発(技術開発目標)  
2050年までに革新的な技術・生産体系の開発を踏まえ、今後、「政策手法のグリーン化」を推進し、その社会実装を実現(社会実装目標)  
※政策手法のグリーン化: 2030年までに施策の支援対象を持続可能な食料・農林水産業を行う者に集中。2040年までに技術開発の状況を踏まえつつ、補助事業についてカーボンニュートラルに対応することを目指す。補助金拡充、環境負荷軽減メニューの充実とセットでクロスコンプライアンス要件を充実。  
※革新的技術・生産体系の社会実装や、持続可能な取組を後押しする観点から、その時点において必要な規制を見直し。地産地消型エネルギーシステムの構築に向けて必要な規制を見直し。



#### 期待される効果

経済	社会	環境
<b>持続的な産業基盤の構築</b> ・輸入から国内生産への転換(肥料・飼料・原料調達) ・国産品の評価向上による輸出拡大 ・新技術を活かした多様な働き方、生産者のすそ野の拡大	<b>国民の豊かな食生活 地域の雇用・所得増大</b> ・生産者・消費者が連携した健康的な日本型食生活 ・地域資源を活かした地域経済循環 ・多様な人々が共生する地域社会	<b>将来にわたり安心して暮らせる地球環境の継承</b> ・環境と調和した食料・農林水産業 ・化石燃料からの切替によるカーボンニュートラルへの貢献 ・化学農薬・化学肥料の抑制によるコスト低減

アジアモンスーン地域の持続的な食料システムのモデルとして打ち出し、国際ルールメイキングに参画(国連食料システムサミット(2021年9月)など)

## SDGsとは

「Sustainable Development Goals」を略したもので、日本語では「持続可能な開発目標」と呼ぶ、国際社会共通の目標です。2015年9月に、150カ国を超える世界のリーダーが参加して開かれた「国連持続可能な開発サミット」で決められました。このサミットで「持続可能な開発のための2030アジェンダ」が採択されました。2015年から2030年までの長期的な開発の指針で、「誰一人取り残さない」持続可能で多様性と包摂性のある社会の実現を目指しています。そのために2030年を達成期限として定められたのがSDGsで「17の目標」と「169のターゲット(具体目標)」で構成されています。



ハウも様々で、技術的に難しいし、一般的に、収量は低いし、販売ルートも独自に開拓していかなければいけない、という難しさがあります。

また、現実には就農するためのアクションを起こし、農地を探したり、補助金を申請したりした途端に、さらに難しくなります。

これまで、有機農業は、農薬をかけないので、周辺の慣行農家に迷惑をかけた、トラブルの原

## 現実の壁

有機農法や自然農法、自然栽培が、まだまだ技術的に確立されたものではなく、考え方や、ノウ

## みどりの食料システム(具体的な取組)

～食料・農林水産業の生産力向上と持続性の両立をイノベーションで実現～

### 調達

#### 1. 資材・エネルギー調達における脱輸入・脱炭素化・環境負荷軽減の推進

- (1) 持続可能な資材やエネルギーの調達
- (2) 地域・未利用資源の一層の活用に向けた取組
- (3) 資源のリユース・リサイクルに向けた体制構築・技術開発

～期待される取組・技術～

- 地産地消型エネルギーシステムの構築
- 改質リグニン等を活用した高機能材料の開発
- 食品残渣・汚泥等からの肥料成分の回収・活用
- 新たなタンパク資源(昆虫等)の利活用拡大等

### 消費

#### 4. 環境にやさしい持続可能な消費の拡大や食育の推進

- (1) 食品ロスの削減など持続可能な消費の拡大
- (2) 消費者と生産者の交流を通じた相互理解の促進
- (3) 栄養バランスに優れた日本型食生活の総合的推進
- (4) 建築の木造化、暮らしの木質化の推進
- (5) 持続可能な水産物の消費拡大

～期待される取組・技術～

- 外見重視の見直し等、持続性を重視した消費の拡大
- 国産品に対する評価向上を通じた輸出拡大
- 健康寿命の延伸に向けた食品開発・食生活の推進

#### 2. イノベーション等による持続的生産体制の構築

- (1) 高い生産性と両立する持続的生産体系への転換
- (2) 機械の電化・水素化等、資材のグリーン化
- (3) 地球にやさしいスーパー品種等の開発・普及
- (4) 農地・森林・海洋への炭素の長期・大量貯蔵
- (5) 労働安全性・労働生産性の向上と生産者のすそ野の拡大
- (6) 水産資源の適切な管理

～期待される取組・技術～

- スマート技術によるピンポイント農薬散布、次世代総合的病害虫管理、土壌・生育データに基づく施肥管理
- 農林業機械・漁船の電化等、脱プラ生産資材の開発
- バイオ炭の農地投入技術
- エリートツリー等の開発・普及、人工林資源の循環利用の確立
- 海藻類によるCO<sub>2</sub>固定化(ブルーカーボン)の推進等

### 生産

#### 3. ムリ・ムダのない持続可能な加工・流通システムの確立

- (1) 持続可能な輸入食料・輸入原材料への切替えや環境活動の促進
- (2) データ・AIの活用等による加工・流通の合理化・適正化
- (3) 長期保存、長期輸送に対応した包装資材の開発
- (4) 脱炭素化、健康・環境に配慮した食品産業の競争力強化

～期待される取組・技術～

- 電子タグ(RFID)等の技術を活用した商品・物流情報のデータ連携
- 需給予測システム、マッチングによる食品ロス削減
- 非接触で人手不足にも対応した自動配送陳列

- ✓ 雇用の増大
- ✓ 地域所得の向上
- ✓ 豊かな食生活の実現

・持続可能な農山村の創造  
・サプライチェーン全体を貫く基盤技術の確立と連携(人材育成、未来技術投資)  
・森林・木材のフル活用によるCO<sub>2</sub>吸収と固定の最大化



困になりやすいという事で、まず、敬遠され、条件の悪い人里離れたような土地しか紹介してもらえませんでした。

環境保全型農業に対する補助金にしても、面的、人的なまとまりがないともらえないこと、「みどり戦略」の補助金や交付金の申請は、さらに難しく、農業者と、地域の農業委員会や農協、機械メーカー、税理士事務所、などと協議会を立ち上げなければいけないし、やたらと手続きが複雑で、いつも、頭が痛くなって止めてしまいたくなくなってしまいます。

私たちのような小グループや、個人が申請するのは、余りにもハードルが高いのです。でも、諦めないで挑戦してみたいと思っています。

わたしたちは、もともと、正真正銘の100%無農薬、無化学肥料栽培だからで、「みどり戦略」に一番近い人たちだと思えるからです。

## 有機 JAS 認証は取得したけれど

現在は、有機 JAS 認証は取得していませんが、(札幌の小別沢時代に、2年間ほど取得したことがあります。余りにも圃場の数(4)と栽培作物が多すぎるので(160種類くらい)手続きが複雑で、お金も一杯かかるので、止めてしまいました。

今は、食べて頂いた方の体感や、長年の信用で買って頂いています。

それに、有機といっても、必ずしも農薬不使用でない場合もあるのです。安全性が高いと思われ

る指定農薬は許可されているからです。

有機農園物=農薬不使用のと思われている方も多いのですが、必ずしも農薬不使用とは言えないのです。(※「有機農産物」とは「科学的に合成された肥料及び農薬の使用」を避けたものを基本とする、と定義されています)

## まほろば自然農園は、0-1テスト農法

また、有機 JAS 認証では、自家採種は努力目標で、必須条件ではありません。まほろば自然農園では、創業当初(27年ぐらい前)から、自家採種を心がけてきました。

しかし、F1種を使わないわけではありません。0-1テストすると、自然交配され、良い性質に改良されたF1種は、在来種より優秀な場合も多いのです。

また、F1種は自家採種しても2代目(F2)は発芽しないとされたりしていますが、そんなことはありません。

F1種を実際に自家採種している人が言っているのですから、間違いありません。

でも、野菜など作ったことのない都会の人は、誰かがそういうと信じてしまっているようです。

良く言われる「曲がったキュウリは自然の証拠」というのが正しくないのも、自分で作ってみればわかります。上手に出来れば、まっすぐきれいなキュウリが出来ますが、水分や栄養分が足りないと、曲がってしまいます。

## 0-1テスト農法を学ぶ研修生たちには高いハードル

ちょっと話が逸れてしまいましたが、そのような0-1テスト農法を学ぶ研修生たちが自立して、新規就農し、持続可能な農業を続けていかれる為には、少なくとも、農家の後継ぎさんと同じような、住むところと、生産手段(土地、倉庫、

大型機械、農機具、設備など)が必要になります。農業は、とりわけ稲作は、初期投資が半端でないで、とてもまほろばと、まほろば自然農園だけでは、支えきれません。

## なつさと応援プロジェクト

そこで、まほろば自然農園から独立した「懐かしき未来応援プロジェクト」(以後、なつさと応援プロジェクト)を立ち上げようかと思っています。

住むところと、農地、農機具は、新規就農者が、自己資金で調達しますが、大型倉庫、大型機械、大型設備や建物などは、「なつさと構想」に賛同して下さる方々から寄付を集められないかと考えています。その為には、受け皿となる組織を作る必要があるように思います。

公的機関の補助金を受けやすくなるというメリットがあります。また、寄付する側もされる側も、税額控除を受けられるので、寄付が受けやすくなるか、社会的信用が高いとか、いろいろあるようです。

ただし、公益財団法人は、一般財団法人から始めて、第三者委員会や税務署の審査に合格して、初めて許可されるそうです。公益財団法人はハードルが高そうです。

色々比較検討して、なつさとメンバーで議論しているところです。詳しい方、アドバイスして頂けると有難いです。

それではまた、ご報告させていただきます。

なつさと応援プロジェクトに、少しでも多くの方が参加して下さいを・・・

## どんな組織がふさわしいか、検討中

今、どんな組織がふさわしいか、検討中です。

公認NPO法人や、公益財団法人という案もありますが、どんなものでしょうか。

両方とも、非営利法人なので、



### <参考資料>

#### 有機農産物に使うことのできる農薬

有機農産物の日本農林規格 [https://www.maff.go.jp/j/jas/jas\\_kikaku/attach/pdf/yuuki-226.pdf](https://www.maff.go.jp/j/jas/jas_kikaku/attach/pdf/yuuki-226.pdf)

- 1, 除虫菊乳剤及びピレトリン乳剤
- 2, なたね油乳剤
- 3, 調合油乳剤
- 4, マシン油エアゾル
- 5, マシン油乳剤
- 6, デンプン水和剤
- 7, 硫黄くん煙剤
- 8, 硫黄粉剤
- 9, クロレラ抽出物液剤
- 10, 混合生薬抽出物液剤
- 11, ワックス水和剤
- 12, ミルベメクチン乳剤
- 13, シイタケ菌糸体抽出物液剤
- 14, 石灰硫黄合剤
- 15, スピノサド水和剤
- 16, 銅水和剤
- 17, 炭酸水素カリウム水溶剤
- 18, スピノサド粒剤
- 19, 食酢
- 20, 次亜塩素酸水
- 21, 炭酸水素ナトリウム・銅水和剤
- 22, 燐酸第二鉄粒剤
- 23, 硫黄・銅水和剤
- 24, 水和硫黄剤
- 25, 天敵等生物農薬・銅水和剤
- 26, ミルベメクチン水和剤
- 27, 銅粉剤
- 28, 硫酸銅 (ボルドー剤調製用に限ること)
- 29, 生石灰 (ボルドー剤調製用に限ること)
- 30, ケイソウ土粉剤 (保管施設で使用するに限ること)
- 31, 炭酸水素ナトリウム水溶剤及び重曹
- 32, 脂肪酸グリセリド乳剤 (捕虫器に使用するに限ること)
- 33, 還元澱粉糖化物液剤
- 34, 二酸化炭素くん蒸剤 (保管施設で使用するに限ること)
- 35, 展着剤 (カゼイン又はパラフィンを有効成分とするものに限ること)
- 36, 炭酸カルシウム水和剤 (銅水和剤の薬害防止に使用するに限ること)
- 37, 性フェロモン剤 (農作物を害する昆虫のフェロモン作用を有する物質を有効成分とするものに限ること)

# ヤケオさんの の 援農日記

写真&文 オサイヤケオ

## 4月2日

畑から湧き出たエネルギーが雪をまばらにしたようだ。「なつさと」の奈月さんと和恵さんがトラクターを運転している。この日が初挑戦と思えないほど堂々としている。小型の手押しロータリーですら



びくびく動かしている自分が情けなくなる。操縦席での

緊張感漂う  
凜とした姿  
が二人とも  
格好いい。  
戦争国なら



美しすぎるパイロットとして格好のプロパガンダになるだろう。「亭主に先立たれてもちゃんとやっていけるよう先のことまで考えとるわ。さすがや。」穂積隊長の一言に顧問が大笑いしていた。

3月に栃木にある殺生石が真っ二つに割れた。美女に化けて天皇を殺そうとした9本尾っぼの狐の呪いを閉じ込めたという伝説の石で、不吉と騒がれていた。4月になって、カップ麺のCMにびっくりした。美輪明宏さんが尾っぼがたくさんのキツネに扮しているではないか！偶然にしては凄



い。でも美輪さんなら世の中を愛で満たしてくれるだろう。ひと安心。

## 4月3日

神社で伐採された大きなカラマツが会長宅の前に並んでいた。「なつさと」の橋本さんと中明さんが木の皮を手作業で剥いている。案内板や木柱にするらしい。僕もやってみたが、少しずつしかできず難しい。下手すりや手の方をむいてしまう。「ゼロワンで実験したら、皮剥ぎはしなくてもいいと出るんだけど」と顧問が呟いた。

小樽で鍼治療を受ける。

「凄い先生なのよ。それにあの御邸宅に入っただけでも元気がでてくるわよ。」と紹介されたとおりだった。大正時代に建てられたお洒落な洋館に入ると、繁栄していた時代の小樽にタイムスリップした気分になった。素敵なお出迎えしてくれた。望診でベットに横たわると高い壁に「私たちの国籍は、天にある。」と書かれた額が掛かっている。気になった。「どなたのお言葉ですか？」「これは聖書ですよ。」と優しい笑顔で教えてくれたが、ちょっと恥ずかしかった。舌色悪し、脈乱れし、教養乏しとカルテに記されたことであろう。みんな必ず天に帰るのだ。国のために死に急がなきゃいけないのか？戦争のことを考えながら、治療を



受けていたが、いつのまにか眠ってしまった。

先生の書物には、「人間って残念過ぎる」「傷ついた人々のために、生きとし生けるもののために、祈ることしかできない。」と記されていた。

## 4月9日

お店からの援農の開幕日である。たくさんの人で賑やかだった。みんなでキクイモを手掘りする。大きいのがたくさん出て来て、あちこちで歓声上がる。



農園のキクイモは凄い。1カ所から何個も何個も、掘れば掘るだけ出てくる。モグラのように掘り続ける。鹿野番長がみんなにキクイモの美味しいレシピを伝授している。触れているだけでも波動が上がらそうな気がして、卵大のをひとつポッケに入れて帰路につく。

殺生石に続いて、白神山地では400年ブナが倒れ、福井では黒竹の花が咲いたらしい。咲くのは120年に一度で、咲くと竹林全体が枯れるそうだ。もう祈るしかない。

## 4月15日

畑のすみっこに緑の濃いところがある。自生のアサツキだ。中山さんが収穫をしていたので様子を伺いに行くといい香りが漂ってきた。身体が反応してお腹が鳴り出す。

橋本さんが顧問の元へ走ってきた。「洋子さん、あなたの言ったとおりよ。カラマツを加



工している人に聞いたらね、皮は自然と剥がれてくるんだって。やっぱりゼロワンって凄いね。」



会長がいちじくの苗木を買ってきた。「どうしてこんなに小さいの買ってくるの、私が生きてるうちに実がならないでしょ。」顧問が笑いながら問いただすも、先の先まで考えている会長はたじろがない。顧問は120歳まで頑張らないといけない。

## 4月23,24日

援農に行けず。白老で鶏の殺処分。強制ではないといわれたが、断れる雰囲気はない。同調圧力に屈する。

鶏をバケツに入れてガスを注入する。殺しついたら卵を回収して最後に鶏舎内を消毒する。幸い自分は殺処分をしなくて済んだ。消毒をしているとき、取り忘れの卵をひとつ見つけた。キクイモとは真逆のエネルギーを感じた。産み落とされた52万羽の呪いが殻を破ったとき、封じ込めることができるのだろうか？

白菜のピラミッドが爆発しました。農園は生命エネルギーにあふれていますよ。



# 「懐しき未来」 と私 — その3

中山 誠基

## 農園での学びの日々

まほろば自然農園では、苗のための温室づくり、土づくり、種まきが最盛期を迎えていた。朝のミーティングで、宮下洋子代表から「土壌の均平化」の大切さについて解説いただく。僅かな土壌の高低差によって生じる温度、水分、日射量の微妙な差が日々の積み重ねによって苗の生育に大きな違いを生むのだ。そのために植物目線で土壌が均平に保たれていることが重要になってくる。毎日変化する苗の表情を観察しながら、その原因と対策について考え、議論し、教わりながら実践を繰り返す。

育った苗を定植するハウス内の出入り口の水たまりを解消する暗渠のためのたて穴を掘る。



茄子の苗

- 人の出入りによって踏み固められた表層は粘土質で硬い。穂積隊長、甲田さんと剣スコップで円状に土を70cmほど掘っていくと粘土質から砂状の地層に変化した。試しに水を流し込んでみると、さらさらと地下に沈んで消えた。ここは余市川の川沿いである。ハウスの土中と地下水、川との水のつながりを想起させる。掘った穴に小石と剪定した丸太や枝、籾殻を入れて、最後に表土をかぶせて暗渠が完成した。地下からポンプアップした地下水を農園に撒くとき、土中の水の動きを想像しながら愉しむことにしよう。



苗づくりが佳境なハウス内

一方、露地栽培ではあっという間に根雪が溶けて、露わになった越冬白菜の臺立ち菜花の収穫がはじまった。春分の日からの長日、少肥、乾燥によって白菜は子孫を増やすために臺を伸ばして種子のための花を咲かそうとする。その臺をできる限り根本から切



暗渠のたて穴



温室土壌の均平化をはかる甲田さん

ると、しっかりと次世代の新芽が来たるべき成長へと準備をしている。どんな状況にも柔軟にタフに生き永らえる植物の小宇宙は、生き方の学びの宝庫だ。



越冬白菜の新芽



越冬白菜の董立ち

## 顕微鏡と望遠鏡

家庭内のことを暴露するようで気恥ずかしいが、妻と私は北海道にきて、よく口論している。東京では、私が仕事でほとんど外出していたため、すれ違いが多かったが、ここ北海道では、有難いことに午前中のまほろば自然農園での研修含めて、四六時中、夫婦一緒に過ごすことができている。どこの夫婦でもあるたわいもないことでお互いの拘りや認識の違いをぶつけ合う。そんな姿を目にした宮下さんご夫妻は「うちと一緒にだな」と目を細めて笑ってくださる。冷静になってお互いそれぞれ自省したのち、口論の原因をふたりで振り返る。その過程で、ものごとを妻は顕微鏡で観察し、私が望遠鏡で俯瞰している違いのあることが、なんとなくわかってきた。

妻は些細なことにとってもよく注視している。彼女の本業としているグルテンフリーのお菓子づくりでは材料の分量はもちろん、その粒子の細かさにまでこだわっている。反面、没頭しすぎて私の視点からは全体を見失いがちである。一方、私は帰国子女で幼少期から日本を俯瞰し

て観てきたことが影響していると思うが、細かいことよりも全体のバランスを保つことに注力しがちである。

2006年当時、私が仲間と運営していたNPO法人「田舎時間」の活動についてテレビ番組「NEWS23」の筑紫哲也さんと対談できる機会があった。収録の合間に筑紫さんとお話していたとき、私たちの活動に関心いただきながらも、1900年はじめに武者小路実篤らがつくった理想郷「新しき村」がうまく継続しなかったことを事例に「自分が正しいと思ひ込みすぎると、孤立という落とし穴があるから気をつけなさい」とアドバイスを頂いたことを思い出す。

私たち夫婦の言っていることはどちらも正解だし、どちらも不正解なのだろう。もし農園で妻と私が口論しているところを目撃したら、「また、やっているな」と笑っていただけたら幸いだ。

## ラダック 懐かしい未来

文化人類学者の辻信一先生がまほろばにいらして、小國寡民の井戸端会議が開催された。ドキュメンタリー映画「幸せの経済学」監督で世

界に広がるローカリゼーション運動のパイオニア、ヘレナ・ノーバーク＝ホッジさんの著書「ラダック 懐かしい未来」に触れていたのを読んでみた。第二部のラダックの変化について、鮮明なドキュメントに心打たれたので引用する。

西洋式の教育：「今では、世界のどこへ行っても西欧中心のモデルを前提とした「教育」が行われている。身近ではない事実や数字などの一般的な知識に教育の焦点がおかれている。教科書には、この



2006年「NEWS23」の特集で筑紫哲也さんと対談

地球という惑星全体に適合する情報であふれている。子どもたちが習うものは、特定の自然環境や文化からかけ離れた一般的な知識であるため、身近な場面や状況から断ち切られたものになっている。



ラダック 懐かしい未来

(中略) 農業を勉

強することになれば、化学肥料、農薬、大型機械、改良品種に依存した工業化された農業について学ぶことになる。西洋の教育システムは、世界中の人びとに地域の環境を無視し、同じ資源を使うことを教えることによって人類全体を貧しくしている。こうして教育は架空の資源不足を作り出し、競争を作り出している。]

引き裂かれた人びと：[メディアによってもたらされる文化の一極集中化も、自信喪失と消極性をますます深めている。伝統的に踊りや歌、

劇が盛んに行われてきた。子どもからお年寄りまで、あらゆる年齢の人が参加した。火を囲んで座っている人たちのあいだで、よちよち歩きの幼児までもが兄や姉、友だちの助けを借りて踊り出した。だれもが歌い、演技し、音楽を奏でることができた。ラダックにラジオが入った今、もう自分で歌を歌ったり、自分の物語を聞かせたりする必要もなくなった。座ってラジオをつければ、最高の歌手、最高の語り手を聞くことができる。そのせいで人びとは自意識過剰になり、自分を抑制するようになった。ラジオのスターたちには決してかなわない。今や自分と比較するのは、歌うのは自分より上手いかもしれないが、踊るのはそれほどでもない実在の隣人や友人ではなくなってしまった。一緒に曲を作ったり踊ったりする代わりに、最高のものを受け身になって聞くことによって、共同体としての結びつきも薄れてしまう。]

これは我が国日本も同じこと、いかに私が西洋の効率主義におかされているかを思い知る。どうも「懐かしい未来」に向けて、より精進が必要なのは妻より私かもしれない。

(つづく)



文化人類学者の辻先生と仁木の農場にて

# imagined scenery

今月の風景 vol.2 2022.5 絵と文・中山奈月



…牡牛座の月によせて…

いまここ北の大地で、志を共にする仲間達が集まりつつあります。今年2月京都より移住を果たした甲田夫妻は、小さな苗をその手に携えていました。それは昨年まほろば自然農場で愛情一杯に育ったマッカムリンゴの赤ちゃん。昨年 宮下ご夫妻より届いたリンゴをありがたく頂くと、その種をポットに植え、寒い冬を越し 京都で大切に育てていたというのです。無農薬の原種が発芽し元気に成長するのは大変難しいらしく、私たちは奇跡と希望を感じました。お二人はいま家を探し、そして大和の安住の地と原風景を希み、牡牛座新月のテーマとシンクロしました。この若葉のご縁と、光溢れる大地の豊かな恵と共に、皆の笑顔が懐かしい未来へつながることを信じています。

2022.5

詳しい解説、月と星座の暮らしのヒントを  
毎月イベントでお話しています  
natsukitchen Facebook ページ→



ふるさとを さがして  
いる

こちよい わが家  
まぶしい ひかり  
雪はとけて 川へそよぐ

ほかほかの おむすびと  
やわらかな 草のうえ  
うとうと まどろむ日を  
夢みて

めんこい若葉が あしたを指さす  
わたしの希望と  
みんなのみらいを  
のせて

樹はもりに 水はうみに  
猫はひなたに 星はそらに

にっこりと

ただいま  
おかえり

PROFILE：中山 奈月 (natsukitchen)

ソニーのグラフィックデザイナーを経て、植物療法士・  
絵を描き占う自然菓子研究家としてキッチンとスケッチ  
ブックを行き来。宮下夫妻の本質的思想に深く感銘し、  
大地と向き合う暮らしの実践を志し昨7月に夫の誠基と  
東京→仁木に移住、現在まほろば自然農園で農業研修中。  
太陽さそり&月おひつじ。